

業委員会が置かれて実質的な活動を担っている。

AMTEX が国の事業として実施されるにあたり政府の行政機関的な連絡組織として **AMTEX 連絡協議会** が最近正式に発足した(事務局は気象研究所企画室内)。この中にはやはり項目ごといくつかの分科会がおかれているが実質的には AMTEX 小委の作業委と同じであり AMTEX に実際に参加するメンバーで構成されている。すなわち企画 (AMTEX 小委) と実行 (連絡協) の2つの機能に分れた上部組織を支える共通の「根」であると考えてよからう。

一方、対外的には AMTEX Steering Committee (企画委員会) と、同じく Management Committee (実行委員会) がすでに第1回の Study Conference (1971年) の際にできて活動している。前出の理論モデルの作業委はこの実行委に属するものである。

5. AMTEX 関係の予算

AMTEX の事業は実験の準備から結果の整理まで、48年度～50年度の3ケ年(気象庁関係は47年度～50年度の4ケ年)にわたり総額4.5億円の経費を必要とする。(内訳気象庁関係3.2億円、文部省関係(大学)1.2億円、科学技術庁関係(防災センター)1,200万円)。

このうち48年度については約2億円の要求に対して約1.8億円が認められた。その省庁別内訳は気象庁関係が約9,100万円、文部省(大学)関係が約7,600万円(科研費等を含む)防災センターが約1,100万円それぞれの要求額に対する割合は85～90%であった。

この他に公害資源研のように独自の予算で参加を予定している機関もあり、外国からの参加はそれぞれの国の予算によっている。

6. AMTEX 予備実験

来年2月の本番にさきだち、予備実験が5月15日から6月8日まで白鳳丸を使って、南西諸島海域で実施される。これは主として大気境界層ならびに海洋の研究項目について測器のテストや相互比較、大気境界層や海洋の種々の現象のスケールを把握して、観測点の配置や観測時間の決定をするためのデータ収集等を目的としている。

7. AMTEX に関する最近の参考資料

- 1) 南西諸島海域における気団変質に関する特別観測計画—AMTEX—: GARP 国内委員会, 天気18巻2号(1971)
- 2) 気団変質に関する副計画について: GARP 国内委員会, 天気18巻6号(1971)
- 3) 日本の AMTEX 計画—シンポジウム予稿: 天気18巻7号(1971)
- 4) 気団変質観測計画に関する研究会議について: GARP 国内委員会, 天気19巻3号(1972)
- 5) 47年度春季大会シンポジウム「AMTEX の観測計画」: 天気19巻10号(1972)
- 6) プラネタリー境界層に関するシンポジウム報告: 片山, 光田, 根本, 横山, 島貫. 天気19巻12号(1972)
- 7) 海洋上の気団変質: 山本, 岸保, 二宮, 浅井, 光田, 竹田, 永田, 片山. 海洋科学1972年10月号
- 8) The air mass transformation experiment (AMTEX): D.H. Lenschow, Bull AMS 53-4 (1972)
- 9) Report of the 7th session of JOC (Munich, June-July 1972): JOC, 1972

外国文献集第2集の印刷不鮮明について

外国文献集編集委員会

外国文献集第2集の最近刊行の巻に、数多く印刷不鮮明のものがありました。また編集上の技術的誤りもいくつか発見されました。その結果、購読者の皆様大変御迷惑をおかけしましたことを編集委員一同誠に申し訳なく思っております。印刷不鮮明の論文はもう一度印刷しなおして、各巻毎にまとめて後日配布します。また、

No. 14. Tropical Meteorology の巻で、第1番目の論文と第2番目の論文の順序が逆になっておりますので、使用に当っては注意して下さい。購読者の方々からいろいろ御指摘頂き有難うございました。ここに重ねてお詫びしますと共に、以上の処置をとることについて御諒承下さるようお願いいたします。